

「第2次坂戸市農業振興ビジョン」の素案に対する意見・提案とその対応

| 投稿者 | 項目 | 意見・要望 | 対応とその考え方 |
|-------|--------------------|---|--|
| 女性30代 | P18)3指標と目標値 | 認定農業者数の目標値が38名(維持)となっており、増加目標ではないのはなぜか。 | 人口減少社会において、農業従事者も減少傾向にあります。今後、認定農業者確保の取組を実施しなければ認定農業者は減少してしまうものと捉えています。本ビジョンにおいては、10年後においても現状と同じだけの認定農業者の確保を目標としたものです。 |
| | P22) 2-1 | 農地の集積・集約を進めるとともに、物理的な集約が難しい小規模農地の活用推進も必要だと考える。多品目小規模栽培でも収益化が図れる仕組みができれば、半農半Xを主体とした都市近郊という利を生かした坂戸市ならではの農業振興が実現できるのではないか。 | いただいた御意見は、P21「1-3 多様な担い手や人材の育成・確保」やP24「3-1 地産地消の推進」の今後の取組の参考とさせていただきます。 |
| | P24)3-1 地産地消の推進 | 学校給食における坂戸市産農畜産物の利用拡大、とあるが、現状は米の供給実績がないようである(P8グラフより)。市内では米の作付農家数が最も多いため、米の供給も検討し得るのではないか。 | 学校給食における米の調達ルートは複数あることから、統一された統計データはありませんが、概ね坂戸市産米が利用されております。 |
| | その他 | 情報発信・コミュニケーション創出に関するビジョンの策定があると良い。坂戸市内の農業に関する取組や新規就農への支援など、調べても知りたい情報が出てこない場合が多い。主体的に調べることのない市民にはことさらその情報に触れる機会がないのではないか。 どのように市民に認知・周知していくのかという視点も必要かと思う。 | いただいた御意見を参考にし、P27「5-1 市民が農業とふれあう機会の推進」に追加表記いたしました。 |
| | | 都市に本社がある企業を誘致し、住宅やリモートワーク用のシェアオフィス(空き家活用)と使用されていない小規模農地(福利厚生として社員へ提供)を貸与する。 | いただいた御意見は、今後の参考とさせていただきます。 |
| | 自由意見・提案 | 水田や畑だけに焦点を当てるのではなく、循環型農業を目指し竹林や落ち葉の活用に加え、坂戸市が工業地帯でもある特性を活かした連携(製菓工場の廃棄物活用、工場敷地内の落ち葉利用等)を図るとよいのではないか。 | いただいた御意見は、P25「3-3 農商工連携・6次産業化の推進」やP26「4-1 環境保全型農業の推進」の今後の取組の参考とさせていただきます。 |

「第2次坂戸市農業振興ビジョン」の素案に対する意見・提案とその対応

| 投稿者 | 項目 | 意見・要望 | 対応とその考え方 |
|-------|--------------------|---|--|
| 女性70代 | P7 農産物の流通・販売 | <p>(4) 農協を通じて出荷が50.9%とあります。この中には学校給食への納品も含まれていると思いますが、坂戸市の子どもたちが学校給食で提供される「農産物の地産地消」の比率は「その他9.8%」なのでしょう。</p> <p>学校給食への出荷量の把握は教育委員会で毎年集計されています。</p> <p>農業振興の立場から「地場農産物」の実態もあって欲しいです。</p> <p>P8の「学校給食の提供実績（年度毎の品目等がとても分かり易いです）」が「農業アンケート調査」からも把握できると違った視点からの実態として良いのでは、と思います。</p> | <p>「農業アンケート調査」における農産物の主要な出荷先として、直接「学校」との回答は1.4%(P7)となっております。「農業アンケート調査」では、P8の「学校給食の提供実績」以上に詳細なデータを把握できる項目がないことから、地場農産物の実態については、現在の表記としております。</p> |
| | P10 2、今後の展望と政策への期待 | <p>■市の農業政策への期待 農業アンケートの中に「地産地消や食育への対策」が31.9%になっています。</p> <p>市内の小中学校へ「地場産農産物」を納入くださる生産者は</p> <p>2020年度21名との事。安定的な収入を得る産業として「農業」はまだまだ伸びしろがある様に思います。</p> <p>新規就農者や若い世代の生産者にとって安定した収入源は貴重です。</p> <p>「地産地消」さらなる取組を期待しています。</p> | <p>いただいた御意見は、P24「3-1 地産地消の推進」の今後の取組の参考とさせていただきます。</p> |
| | P25 3-2 | <p>【主な取組内容】</p> <p>○「安全・安心・環境にやさしい」農産物・・・云々とあります。</p> <p>ブランド化、差別化と言った言葉が使われていますが、最も重要視されることが「有機農業への転換」だと考えます。</p> <p>P26 基本方針4</p> <p>P27 基本方針5</p> <p>共に関連することですが、子どもたちの農業体験、学校給食への農畜産物納入、食を通じた持続可能な「資源循環型農業の推進」、いずれも「有機農業」を柱に据えた取組が求められているのではと考えます。</p> | <p>いただいた御意見は、P26「4-1 環境保全型農業の推進」やP27「基本方針5 農業・農産物による地域への愛着と誇りの醸成」の今後の取組の参考とさせていただきます。</p> |

| 投稿者 | 項目 | 意見・要望 | 対応とその考え方 |
|-----|---------|--|--|
| | 自由意見・提案 | <p>①「坂戸市学校給食を考える会」で長年言い続けている事の一つが「有機農産物導入」についてです。坂戸市は環境学館いずみを中心に「ミツバチプロジェクト」にも取り組んでいます。「環境に負担を与えない」は農業にも当てはまる事。是非、「有機農業への転換」を最優先課題として「基本理念 目指す将来像(4)」に付け加えて頂きたいと思います。</p> | <p>P17目指す将来像(4)に掲げる、安全・安心で環境にやさしい農産物には、有機農業により生産される農産物も含めた内容になっております。頂いた御意見は、P26「4-1 環境保全型農業の推進」の今後の取組の参考とさせていただきます。</p> |
| | | <p>②農業を通じて様々な事が学べます。「いのちを育むこと」「食べることが生きることにつながる、と言う事」「食料を輸入に頼ることなく、自給率を高めていく事」も大事な課題となっていると思います。「地産地消」は、学校給食を通じて導入率を高め、進めていく事で、子どもたちから保護者へと伝わり、「坂戸市の農産物の良さ」を広めることもできるのだと思います。</p> | <p>いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p> |
| | | <p>③坂戸市の農業がさらに発展出来るように、「学校給食との連携」を大きな柱に据え、未来をになう子どもたちに「環境配慮し、負担をかけない、安全で安心な農畜産物と坂戸市の台地を残して頂きたい」と考えています。その為に、農業振興課、環境政策課、教育委員会等々庁内横断的なつながりを作って「坂戸市の農業」の未来を創って欲しいと思っています。「子どもたちの未来のために」よろしくお願いします。</p> | <p>いただいた御意見を参考にさせていただきます。</p> |